

1. 腎と薬剤研究会発表報告

日時 2009年9月19日(土)13:00 ~ 9月20日(日)16:30

場所 名古屋国際会議場 (愛知県名古屋市)

メインテーマ 「慢性腎臓病(CKD)治療に対する新たなる活動 チーム医療の必要性」

演題ポスター発表

「酸化マグネシウム製剤による高マグネシウム血症事例と腎機能の分析 第報」

今回の学術大会では、多くの腎臓専門医の講演や腎臓内科・透析施設のある病院の演題発表など、普段耳にしないもので少々難しかった。今年改訂された「CKD(慢性腎臓病)診療ガイド2009」について大きく触れ、CKD患者に対する適正な薬物治療の推進と透析患者の腎機能に応じた薬物投与の確立・中毒副作用の防止・QOL向上について多く論じられていた。また、CKD-MBD(骨代謝ミネラル異常)管理に伴う薬剤が臨床の場に多く普及しているため、このテーマの講演・演題発表が目立った。腎臓病教室における薬剤師の取り組みなども紹介された。

CKD診療ガイドについて言えば、私たちの医療機関として取り組めるのは、「CKD予防、CKD早期発見と腎臓専門医との連携による診療」。CKDのリスクファクターとして、高齢、腎機能異常、高血圧、肥満など様々あるが、NSAIDsなどの併用薬もある。私たち薬剤師は、薬の専門家として腎機能に応じた薬物投与設計に携わり、CKD進行や有害事象を防止すること。それには、薬の代謝・排泄経を理解し、病態・腎機能を常に念頭に置くこと。ここまでは当たり前の事かと思うが、さらにその知識を活かし後輩等に指導できること(大会会長が閉会のあいさつで述べていた)。今後、もっと学習し力を付けていきたいと思えます。保険薬局では腎機能など検査値の把握が難しいのが課題であるが、医療機関との連携やトレースレポートの活用など工夫したい。

演題発表は、保険薬局から唯一のエントリーでした。「ポスター賞」(51演題中、3演題)をいただきました。各医療機関・薬局の皆様、ご協力ありがとうございました。

質疑は

- ・透析患者症例はあるか?
- ・血清Mg値は中止・減量後、どのくらいの期間で下がるか?
- ・血清Mg値はMg製剤の用法(分3と分1など)によって変わるか?
- ・「測定お願いカード」は実際どの程度活用されたか?
- ・消化器症状の具体的な指導は? 自覚症状での発見は難しいのでは?

来年は第4回学術大会が開催されます。

2010年10月30(土)~31日(日) パシフィコ横浜